

通番	発行日	号数	1面	2面	3面	4面	5面	6面	7面	8面
1	2009.01	22	・会長 副会長あいさつ	・プロジェクト参加者募集	・たまサロン報告	・まちづくりカレンダー	・編集後記			
2	2009.04	23	・6つのプロジェクトがスタート	・プロジェクト紹介	・市民自治創造	・かわさきフォーラム報告	・まちづくりカレンダー	・編集後記		
3	2009.09	24	・プロジェクト参加者募集	・たまサロン参加者募集	・プロジェクト紹介	・歳時記	・まち協のなかまたち	・まちづくりカレンダー	・編集後記	
4	2009.12	25	・他都市視察研修会報告	・たまサロン報告	・まちカツ!お知らせ	・プロジェクト紹介	・歳時記	・まち協のなかまたち	・まちづくりカレンダー	・編集後記
5	2010.01	26	・まちカツ!開催チラシ							
6	2010.04	27	・まちカツ!報告	・第1期の活動を終えて(プロジェクト)	・歳時記	・まち協のなかまたち	・まちづくりカレンダー	・編集後記		
7	2010.09	28	・新しい仲間が集まり第2期がスタート!	・会長あいさつ	・役員紹介	・新しい組織	・体制にしました	・会議などのスケジュール	・プロジェクト紹介	・歳時記
8	2010.12	29	・他都市視察研修会報告	・他都市受け入れ報告	・プロジェクト活動紹介	・歳時記	・まち協のなかまたち	・まちづくりカレンダー	・編集後記	
9	2011.01	30	・まちカツ!・たまサロン開催チラシ							
10	2011.04	31	・まちカツ!・たまサロン報告	・まちカツ!報告	・たまサロン報告	・プロジェクト活動報告	・歳時記	・まち協のなかまたち	・まちづくりカレンダー	・編集後記
11	2011.08	32	・多摩★まち大学スタートしました	・平成23年度総会を終えて	・各プロジェクトの活動計画	・方針	・歳時記	・平成23年度年間スケジュール	・まちづくりカレンダー	・編集後記
12	2011.10	33	・平成23年度たまサロン開催	・たまサロンのワークショップの流れと新たな課題への挑戦	・第1回多摩★まち大学の報告	と今後の方針について	・歳時記	・プロジェクト活動進行中	・まちづくりカレンダー	・編集後記
13	2011.12	34	・多摩★まち大学大反響	・他都市視察研修会報告	・練馬・三鷹のまちづくりの現場を訪ねて	・多摩★まち大学報告①	・多摩★まち大学報告②	・プロジェクト活動進行中	・歳時記	・まち協ホームページリニューアル
14	2012.03	35	・まちカツ!盛況裏に幕	・ポスターセッション&ポスター展示	・まち協ホームページができました	・第2期の活動を終えて	・プロジェクト活動報告	・歳時記	・活動支援情報	・編集後記
15	2012.08	36	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・たまの顔	・編集後記		
16	2012.10	37	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・たまの顔	・編集後記		
17	2012.12	38	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・たまの顔	・編集後記		
18	2013.03	39	・多摩の風景	・まちカツ!報告	・まちカツ!講演会	・ポスターセッション&ポスター展示	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・たまの顔
19	2013.08	40	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・たまの顔	・編集後記		
20	2013.10	41	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・たまの顔	・編集後記		
21	2013.12	42	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・たまの顔	・編集後記		
22	2014.03	43	・多摩の風景	・まちづくりTOPICS	・まちカツ!報告	・まちカツ!講演会	・まちカツ!ポスターセッション&ポスター展示	・歳時記	・たま今昔	・たまの顔
23	2014.08	44	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・たまの顔	・編集後記		
24	2014.10	45	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・たまの顔	・編集後記		
25	2014.12	46	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・たまの顔	・編集後記		
26	2015.03	47	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・まちカツ!まち協報告	・まちカツ!講演会	・まちカツ!ポスターセッション&ポスター展示	・歳時記	・たま今昔	・たまの顔
27	2015.07	48	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・たまの顔	・編集後記		
28	2015.10	49	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・たまの顔	・編集後記		
29	2015.12	50	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・たまの顔	・編集後記		
30	2016.03	51	・多摩の風景	・まちカツ!まち協報告	・まちカツ!講演会	・ポスターセッション&ポスター展示	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・たまの顔
31	2016.07	52	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・新会長あいさつ	・編集後記		
32	2016.10	53	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・多摩の明日に向かって	・編集後記		
33	2016.12	54	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・多摩の明日に向かって	・編集後記		
34	2017.03	55	・多摩の風景	・まちカツ!報告	・まちカツ!講演会	・まちカツ!ポスターセッション&ポスター展示	・まち協まちづくりTOPICS	・歳時記	・たま今昔	・多摩の明日に向かって
35	2017.06	56	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・まち協第5期後半の取り組み	・編集後記				
36	2017.09	57	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・多摩区内の小学校	・たま今昔	・編集後記			
37	2017.12	58	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・多摩区内の小学校	・多摩の明日に向かって	・編集後記			
38	2018.03	59	・多摩の風景	・まちカツ!まち協報告	・まちカツ!講演会	・ポスターセッション&ポスター展示	・まちづくりTOPICS	・多摩区内の小学校	・たま今昔	・編集後記
39	2018.06	60	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・多摩区内の小学校	・多摩の明日に向かって	・編集後記			
40	2018.09	61	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・多摩区内の小学校	・たま今昔	・編集後記			
41	2018.12	62	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・多摩区内の小学校	・多摩の明日に向かって	・編集後記			
42	2019.03	63	・多摩の風景	・まちカツ!まち協報告	・まちカツ!講演会	・まちカツ!ポスターセッション&ポスター展示	・まち協まちづくりTOPICS	・多摩区内の小学校	・たま今昔	・編集後記
43	2019.06	64	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・多摩区内の小学校	・多摩の明日に向かって	・編集後記			
44	2019.10	65	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・多摩区内の小学校	・編集後記				
45	2020.01	66	・多摩の風景	・まち協まちづくりTOPICS	・多摩区内の小学校	・編集後記				
46	2020.03	67	・12年間ありがとう!	・広報編集部より一言	・シリーズを振り返って	・まちカツ!まち協報告	・ポスターセッション&ポスター展示	・まちカツ!終了後の懇親会	・まち協まちづくりTOPICS	・多摩区内の小学校

編集後記

現在の子どもたちの将来の夢 No.1のYouTuber。僕も本業で参戦し始め、ようやく形になり始めました。半年続けられたら軌道に乗ると言われたので、コツコツとアップしています。継続は力なり。12年続いたまち協の力は偉大だと思います。(加藤)

【お問合せ】

〒214-8570
多摩区役所地域振興課まちづくり推進係
電話 935-3148 FAX 935-3391
メール 71tisin@city.kawasaki.jp
ホームページ http://tamaku-machikyo.com/



多摩区まちづくり協議会は、区民の自主的なまちづくり活動組織です。区民が取り組む地域活動を、年4回発行でお知らせしています。

私たちのまちづくり

多摩区まちづくり協議会 NEWS

2020年
(令和2年)3月

67号

最終号

12年間 ありがとう!

多摩区まちづくり協議会は、2020年3月をもって活動を終えます。

広報編集部より一言

多摩区まちづくり協議会で、区役所との協働のもと、多くの市民・団体の方に取材をお願いし、話を伺い交流できた体験は、広報編集部の各メンバーにとって大きな財産になったと感じます。

区民記者として、おもしろい活動をする個人・団体を発掘することの喜びは、情報流通が盛んな地域では味わえない醍醐味だと思います。

紙面の都合とはいえ、おもしろい活動を200文字と小さな写真で収めるのは難しく、もっと載せたいなあと思うことも多かったように感じます。第22号から多摩区まちづくり協議会で編集を担当した本紙も、12年かけて46号、前身団体の多摩区まちづくり推進協議会から数えると、計67号を発行することができました。

これもひとえに、制作や配架にご尽力くださった皆さまのおかげだと感じます。本当にありがとうございました。



たま今昔 区制が敷かれてから40年以上を経た多摩区の昔の姿を探ります

2012年8月の第36号からシリーズものとして掲載が始まりました。同一場所の昔と今の写真を並べて表示し、簡単な解説文をつけるものでした。

なるべく昔と今の違いがはっきりとわかる場所で、かつ区内の地域が偏ることのないように心がけてきましたが、昔の写真が限られていたために、なかなかそのようには進みませんでした。写真は図書館の郷土史関係の写真集などから探しましたが、小中学校史や町会史などから使わせていただくこともあり、特に稲田郷土史会にはお世話になりました。

「昔」とはいつ頃を指すかについてですが、読む人が最も興味をもつのは自らの人生との重ね合わせだろうということに途中から気が付きました。この頃自分は何をしていたのか、どんな生活をしていたのか、「そういうようなこともあったなあ」と思い出しながら、そして「ああ、こんなに変わっていたのか、自分も変わったわけだ」というようなことを感じとれるものを心掛けました。多摩区も、戦後の高度成長が始まる前と比べると隔世の感がありますが、平成のはじめの頃とはそれほど変わっていないこともわかりました。

多摩区の将来ですが、今後は人口減とともにさらに空き家も増えと思えます。将来「たま今昔」が復活したときに「宅地→荒廃地」ではなく「宅地→緑地」のようになることを期待したいと思います。(文：児井)

多摩区まちづくり協議会 NEWS 「たま今昔」記事

通番	発行日	号数	内容・場所
1回	2012.08	36号	生田
2回	2012.10	37号	向ヶ丘遊園駅
3回	2012.12	38号	八幡踏切と二ヶ領用水
4回	2013.03	39号	中野島駅付近
5回	2013.08	40号	生田緑地の噴水広場
6回	2013.10	41号	月見台商店街(生田駅南から)
7回	2013.12	42号	向ヶ丘遊園モノレール跡地
8回	2014.03	43号	川崎市立登戸小学校
9回	2014.08	44号	登戸研究所
10回	2014.10	45号	多摩川水道橋
11回	2014.12	46号	南武線(中野島)
12回	2015.03	47号	豆汽車・豆電車・モノレール
13回	2015.10	49号	橋樹郡生田村の村役場 (生田出張所)
14回	2015.12	50号	津久井道
15回	2016.03	51号	登戸駅
16回	2016.07	52号	長沢浄水場
17回	2016.10	53号	多摩警察署前交差点
18回	2016.12	54号	長沢商店街
19回	2017.09	57号	菅の渡し
20回	2018.03	59号	府中街道稲生跨線橋
21回	2018.09	61号	府中街道長尾橋交差点
22回	2019.03	63号	仙谷清水谷戸

多摩区内で進行中、または進行予定のプロジェクトを順次取り上げて、この区、この街がどう変わっていくのかを区民に伝えることを狙いにこのシリーズが始まりました。

記事を作るうえで、各号の発行時期で取り上げるのに適当な工事、プロジェクトを調査。その時点ですでに工事が進捗している、あるいは公表できる具体的な計画がある案件を取り上げました。まず川崎市関係部署、事務所等にヒアリングを行い、また現場にも出向き取材を行いました。このヒアリング、現場取材は、自分の知りたいことを市民目線で確認したり、五反田放水路整備事業のように関係者以外立ち入れない地下の工事現場を見学するという体験もでき、広報誌の記者として結構楽しい仕事でした。

なお適当な工事、プロジェクトがない場合、残念ながらその号での本シリーズの記事はナシとなります。津久井道の多摩水道橋～多摩警察署前交差点間の複数車線化工事のように、取り上げたいが完工までにまだまだ時間がか



浄水場通り専修大学付近の整備工事

かり、この先の計画を公表できないということで断念した案件もありました。

向ヶ丘遊園の跡地には温泉施設、キャンプ場、店舗が融合し、大人も子どもも楽しめる「新向ヶ丘遊園地」が誕生、区画整理により新設の3つの公園を含む新しい街並みとなる登戸地区、この2大プロジェクトにより多摩区が5年後10年後、川崎市、東京近郊、そして小田急線沿線で魅力的で住みやすい街になり、住みたいまちにランクインすることが夢です。(文：矢野)

通番	発行日	号数	内容・場所
1回	2016.01	53号	小田急線登戸駅
2回	2016.12	54号	生田浄水場跡地
3回	2017.03	55号	向ヶ丘遊園の跡地利用について
4回	2017.12	58号	登戸土地区画整理事業
5回	2018.06	60号	五反田川放水路整備事業
6回	2018.12	62号	市道向ヶ丘遊園駅營生線の稲生橋交差点の改良工事について
7回	2019.06	64号	横浜生田(東三田工区)の専修大学付近の整備工事について

多摩区内小学校



多摩区内の公立小学校(14校)の訪問を終えて

広報編集部が57号(2017年9月号)から連載スタートした区内公立小学校紹介も、今号をもちまして終了となります。

この間、各小学校校長先生をはじめ、大勢の学校関係者の方々にいろいろなお話を伺いました。各学校とも、教育方針や目標を掲げながら、短くもあり、長くもある6年間を緻密に丁寧に指導され、子どもたちにとっても学び続けることの大切さや厳しさ、新しいことへの挑戦・喜びは大きな自信となっているに違いありません。

さらに、子どもたちはさまざまな学校行事に参加し、また地域とのつながりでは、農家さんに田植えから稲刈りまでの一連の指導を受けたり、地域の人に昔遊びを教わったり、他校や卒業生との交流を深めたりしながら、確実に未来をつくる心の豊かさ、逞しさを身に付け、一步一步進み続けられていることを実感いたしました。

そして、切磋琢磨している姿は、私たちに大きな勇気と励みを与えてくれました。

全小学校の先生方、子どもたち、いろいろとご協力いただきありがとうございました。(文：小澤)

多摩のくらし～歳時記

川口キンさんによる連載が、2009年9月の第24号から2017年3月の第55号まで30回にわたって掲載されました。川口さんは登戸在住で、医療機関での医療事務従事や医療福祉専門学校で教員を務められ、退職後は多摩区文化協会や多摩区地域教育会議等地域での活動にご尽力いただいた方です。

一般に歳時記とは江戸時代に、動植物、四季の事物や年中行事などの紹介をまとめたもので、日本人として心得ておくべきルールやマナーなどが述べられていたものです。川口さんの連載はその現代版ともいえるべきもので、多摩区で身近に接することができるような事や物について、わかりやすい文体で書かれていました。理由も知らず、単に習慣だからというだけで行っていた四季折々の行事についての詳しい解説をはじめ、部屋や庭木などの住居に関するもの、そこに飾られる仏壇の話や、そこで執り行われる茶の湯の話など幅広いものがありました。さらに食事などのマナーについてもその由縁を含めた解説もありました。

これらは広く日本人全体にとって知っておくべきものであり、多摩区という狭いエリアでしか読まれなかったということが誠にもったいないという気にさせるものでした。(文：児井)

通番	発行日	号数	内容
1回	2009.09	24号	十五夜(仲秋の名月)
2回	2009.12	25号	お正月
3回	2010.04	27号	端午の節句
4回	2010.03	28号	七夕と重陽の節句
5回	2010.12	29号	子どものお祝い
6回	2011.04	31号	雛(ひな)の節句・桃の節句
7回	2011.08	32号	お盆
8回	2011.10	33号	西の市
9回	2011.12	34号	節分
10回	2012.03	35号	彼岸と彼岸会
11回	2012.08	36号	盆踊り、十三仏
12回	2012.10	37号	茶の湯の道
13回	2012.12	38号	師走(冬至と大みそか)
14回	2013.03	39号	花祭り
15回	2013.08	40号	六月一日衣替え・アユの解禁
16回	2013.10	41号	七福神巡り
17回	2013.12	42号	除夜の鐘
18回	2014.03	43号	代表的仏像の種類と役割
19回	2014.08	44号	夏祭り
20回	2014.10	45号	神棚の祀り方
21回	2014.12	46号	初午
22回	2015.03	47号	美しい日本の庭に「庭木」あり
23回	2015.07	48号	日本間
24回	2015.10	49号	碁
25回	2015.12	50号	針供養
26回	2016.03	51号	国旗
27回	2016.07	52号	和食についてのマナー(正しい箸の使い方)
28回	2016.10	53号	洋食についてのマナー
29回	2016.12	54号	だるま市
30回	2017.03	55号	お花見(変遷とその催し方)

多摩区まちづくり協議会 活動発表会

多摩区まちづくり協議会本体

2019年度(第6期後半)も、これまで同様「中間支援的機能の拡充」と「まちの課題の抽出とその解決」をミッションとして掲げ、積極的に活動してまいりました。今年で11回目を迎えた一大事業の『まちカツ!(まちづくり活動発表会)』をはじめ、『たまサロン(出張たまサロン)』や『多摩★まち大学』、『多摩★まちCafé』を区民や市民活動団体向けに計画的に開催するとともに、広報誌を発行し、まち協の活動報告や地域の情報をお知らせしました。

2008年度にまち協が発足されて以降、6期12年、延べ412名の委員が活動に携わってきました。この間、108個の事業を実施し、例えば「多摩★まち大学」では、本市が推進する「地域包括ケアシステム」についていち早く取り組むなど、まちづくり活動に役立つ学びの場を提供し、「多摩★まちCafé」では、子育て支援や多世代交流等その時々旬なテーマを掲げ、関連団体を招き、講演いただくとともに交流の場を提供してきました。また、地域の課題解決に取り組んだ9つの「プロジェクト」では、その後、コミュニティカフェの開設につなげたものや、一般社団法人化したものなど、大きな成果を挙げたものがあります。

これまでの活動を通じて、たくさんの区民の方々や市民活動団体の皆様とつながりを持つことができ、多摩区の“輪(わ)”を広げるきっかけづくりに寄与できたのではないかと思います。

葛生会長



ポスターセッション参加団体 (発表順)

多摩区1階アトリウムで、2/7(金)~14(金)の8日間、多摩区を中心とする地域で活動をする市民活動団体のポスターが展示されました。

まちカツ!内のポスターセッションでは、展示されたポスターをもとに23団体(うち初参加5団体)によるプレゼンが行われました。

1団体3分間の持ち時間の中で、発足した経緯、活動の主旨、日頃の活動内容などが発表されました。

新しい助成金、生田緑地の今後の計画などのお知らせ、登戸研究所で戦時中に偽札が作られていたこと、国より先に公害に関する規制を行ったのは川崎市だという事実、見かけたら声をかけてくれるとうれしいですといったメッセージなどが届けられました。

小休止も兼ねて、発表後に3回、発表団体との交流が行われました。気になった団体のメンバーに話を聞く時間を設け、活動に関する質問や意見の交換が活発に行われました。

全団体のプレゼン終了後、来場者が特に印象に残った団体の投票が行われ、最優秀賞にあたるベストプレゼンたま賞には、SIV(専修生田ボランティア)と僕らの夏休みProject実行委員会専修大学支部が同率受賞されました。

出展団体一覧

- 多摩区認知症カフェ・地域カフェ交流連絡会
 - NPO法人 ぐらす・かわさき
 - 登戸研究所保存の会
 - 向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会
 - 地域通貨たま運営委員会
 - 公益財団法人 かわさき市民活動センター
 - 多摩区役所コンテナ花壇の会
 - NPO法人 川崎フューチャー・ネットワーク
 - 公益財団法人 かわさき市民しきん
 - SIV(専修生田ボランティア)
 - チーム・たま
 - NPO法人 多摩川エコミュージアム
 - 葦駄天カフエ実行委員会
 - 多摩区ソーシャルデザインセンター
 - かわさき市民後見をすすめる会
 - 一般社団法人 まぐたま
 - かわさきの安全でおいしい水道水を守る会
 - 川崎地域エネルギー市民協議会
 - Cat é POP! (NPO法人療育ねっとわーく川崎)
 - たまむすび
 - 日向山うるわし会
 - 川崎、再発見隊
 - 僕らの夏休みProject実行委員会 専修大学支部
- (揭示番号順)

多摩エコスタイルプロジェクトの8年間の活動を振り返って

多摩エコスタイルプロジェクトは区民会議の提言を受けて、2012年に誕生しました。その方針は「多摩区内で環境(エコ)活動をしている団体や個人の力を結集し、区民が主体となってエコなライフスタイルを広めて行く」としました。8年間この方針に沿って下記の活動をしてきました。



本多代表

1. エコなライフスタイルへの啓発活動

エコショッピングクッキング(ゴーヤ編・のらぼうな編)/ゴーヤの育て方講習会/しゅろの籠づくり/ゴミ分別ゲーム/牛乳パックでうちわづくり/マイ傘袋づくり/ソーラークッキングなど

2. 二酸化炭素(CO2)排出の削減及び商店会と連携したエコ活動

4商店会でのエコポイントカードの運用支援(注1)や登戸まちなか遊縁地(注2)の企画と参加によるレジ袋削減やリユース食器の利用推進など

注1:登戸東通り商店会、区役所通り登栄会商店街、民家園通り商店会、生田中央商店会で5年前から運用されています。2019年12月末の実績は、レジ袋:33,000枚(CO2換算=約548kg)の削減になりました。またこの活動により川崎市から2016年度に「川崎市スマートライフスタイル」で優秀賞を、国から「低酸素杯2018全国大会」で優秀賞を受賞しました。また先の2商店会は、川崎市からエコ商店街認定書も受けています。

注2:登戸駅周辺の区画整理でできた空き地を利用して開催される遊縁地。来場の家族の家庭内エネルギー消費の削減も開催目的の一つとしています。

エコポイントカード実績(2019年12月末時点)
(登戸東通り商店会・区役所通り登栄会商店会
生田中央商店会、民家園通り商店会)



2020年3月末で多摩区まちづくり協議会が解散されますが、多摩エコスタイルプロジェクトの有志により、4月以降もサポートは続けていくつもりです。引き続き地域の皆様のご支援をよろしくお願い致します。

まちカツ! 終了後の懇親会



お一人ずつ自己紹介を行うなど交流を深め、とても和やかな時間を過ごしました。



23団体参加のポスターセッション終了後「レストランたま」へ会場を移しての交流会では、「まちづくり協議会」が今年度で終了する為、40名程の参加者がそれぞれの思いを語りました。

ポスターセッションでSIV(専修生田ボランティア)&僕らの夏休みProject実行委員会 専修大学支部が同率1位に輝いたことで、若い力の今後の活躍に期待をするとともに新たにスタートする「多摩区ソーシャルデザインセンター」の展開を楽しみにしつつ「まちカツ!」は終了しました。(森)

まちづくり TOPICS

多摩区まちづくり協議会が内外で行っているさまざまな活動の紹介や、身近なまちの情報などを、トピックス仕立てでお届けします！

【まち協ホームページ】
<http://tamaku-machikyo.com/>

多摩★まち大学 第2回多摩★まち大学 記事 葛生 「空き家の現状・課題と 利活用について」

1月29日(水)、午後1時30分から多摩区総合庁舎6階会議室で、多摩★まち大学を開催しました。近年空き家が目立つ中、地域の問題にならないよう適正な管理と地域資源としての利活用について、事例を通して学ぶこととし、川崎市まちづくり局住宅整備推進課と一般財団法人世田谷トラストまちづくりのご担当者からそれぞれ「空き家の現状と課題、市としての取組」及び「麻生区王禅寺西における空き家利活用モデル事業」、また「空き家・空き部屋の地域への活かし方」について講演をいただきました。



記事 中島 コンサルタントから一言

これまで各区のまちづくり推進組織に関わってきましたが、多摩区まち協は地域コミュニティづくりに熱心なことが印象的。地域包括ケアシステムの普及をはじめコミュニティに関わる活動が多かったように思います。

地域コミュニティは、まちづくりの基本。これまでまち協が大事にされてきたことが、引き継がれることを期待します。お疲れさまでした。



第3回多摩★まちCafé 記事 下重 「つくって・つなげて・出会う 色とりどりの・ツリーをつくろう」

2019年12月7日(土)福祉のおまつり「ウェルフェス2019」にて、参加者と手を動かしおしゃべりしながら、色とりどりの○△□の布でクリスマスツリーをつくりました。

アートを介する事でほどよい距離感・言葉以外のコミュニケーションにより、居合わせた人が互いに興味をもち、利用者さん。支援職員の方との新しいコミュニケーションも提案する事ができました。

支え合う形はひとりひとり違う事をあらためて問う企画となりました。



多摩★まち大学 第3回多摩★まち大学 記事 湯山 「～地域で子どもを守ろう～」を 開催しました

2月20日(木)多摩区役所11階会議室で、「地域で子どもを守ろう」をテーマに座学講座を開催しました。講師は多摩警察署スクールサポーターの藤木清さんと、多摩少年補導員連絡会長の遠藤亨さん。人を傷つけないために気を付けることや、最近の子どものインターネット被害について不用意に個人情報を伝えないことや時間を決めて使うことなど、親子で確認しあう大切さなどのお話を伺いました。また、子どもの見守りを「できる人ができる時にできる所で絶えず行い続ける」ことの大切さを教えていただきました。



まち協及び区内のイベント情報 (5月～6月) 【多摩区内のオススメイベント】

- 5/2 (土)～6 (水・振休)
 ①TARO 鯉展示 (※開館時のみ、雨天中止)
 @川崎市岡本太郎美術館
- ②森のゴールデンウィークマルシェ @生田緑地
- 5月中旬
 生田緑地ばら苑開放
- 5/30 (土) 正午～
 登戸まちなか遊縁地 @区役所東通り駅方向交差点空き地 他
- 6/1 (月)
 アユ釣り解禁 @多摩川
- 6/17 (水) 正午～
 たまアトリウムコンサート @区役所1階アトリウム
- 6/21 (日) 10時～
 長尾の里 あじさいまつり @妙楽寺

※ イベントの日程・内容等変更になる場合がございます。

多摩区内小学校



【第13回】生田小学校

明治6年開校と市内で最も歴史がある学校の一つで、令和5年に創立150周年を迎える生田小学校を訪問し、松崎哲範校長先生にお話を伺いました。全児童数は483名(令和2年3月1日現在)で、伝統ある学校にふさわしい校風にどこか懐かしさを感じられました。

目指す学校の姿として「ぬくもりのある学校」を、目指す子どもの姿として「進んで学ぶ子、よく考える子、思いやりのある子、たくましい子」を、目指す教職員の姿として「寄り添った指導ができる教職員」を掲げられております。

学校行事では、下校庭での落ち葉拾いから農業体験(地域指導によるもの)、ブランド米を育てる山形県青年部との交流、また、地区別運動会(6年生)での長縄跳びの記録的回数の跳躍など、さまざま開催されております。中でも、全校音楽会では全児童・保護者が体育館に一堂に会し、学年ごとに合奏・合唱発表を行います。全員での合唱もあります。聞き手の心に響いてくる真っすぐなその歌声と演奏はとても力強いエネルギーがあり、保護者や地域の方々からいつも大絶賛の声が寄せられます。

また、縦割り活動として、毎週金曜日に実施している清掃の時間は、6年生が中心となって下級生と合同で実施しており、まとめる6年生の姿は4・5年生にとっては模範であり、憧れになっている光景です。まさにしっかりと役割分担から生まれてくる学び合いであり、子どもたちからも『仲間』という言葉がよく使われているとのこと。よい伝統としてしっかりと仲間づくりを行い、自信を持って一歩ずつ成長してほしいと感じました。(小澤)



全校音楽会(オープニング合唱)

【第14回】南生田小学校

暖かい日差しの中、長く急な登り坂を上がり、小高い丘の上の校庭から子どもたちの元気な声が聞こえる南生田小学校を訪問し、小川俊哉校長先生にお話を伺いました。

同校は昭和51年4月に開校し、令和元年9月1日現在、1,037名の児童が在籍しています。令和元年度・2年度、理科の川崎市教育委員会研究推進校の指定を受け、一人一人の将来につながる「生きる力」を育成することを目標に、「主体的・対話的で深い学び」等授業改善を目指して、総合教育センターや川崎市立小学校理科研究会の支援のもと、主に校内授業研究を通して、子どもたちが活躍、成長できる学校づくりを進められています。なお、令和2年1月から日産財団理科教育助成も受けております。

また、5・6年生を中心に、歌が大好きで歌を歌いたい児童が集まって合唱団を結成されており、「音楽・ハーモニーで人と人、心をつなぐ学校づくり」を目指して、長沢音楽祭「長沢ニコニコハーモニー」等地域で開催される行事に積極的に参加し、活動の輪を広げています。その努力が実り、今年度TBSラジオ主催の「TBSこども音楽コンクール」の東日本大会に出場し、優秀賞を受賞されました。

学校教育目標として掲げられている「一人一人の子どもが、心豊かで自らよく学び、たくましく活躍できる子の育成」(①良く考え、学ぶ子②心豊かで仲良くする子③たくましく成長する子④南生田を大切に思う子)の姿像に、子どもたちが少しでも近づいてほしいと思いました。(伊藤)



理科の実験で真剣に取り組む子どもたち